

令和8年度 第1回社会教育委員会議

日 時：令和8年6月18日（木）

午後2時～3時30分

場 所：食糧会館4階 会議室

次 第

1 開 会

2 委嘱状交付

3 教育長あいさつ

4 自己紹介

5 座長選出

6 報 告

(1) 令和7年度社会教育事業の実施状況について

資料1

(2) 令和8年度の社会教育事業の計画について

資料2

7 そ の 他

(1) 第17回山形県社会教育研究大会について

8 閉 会



良い会議にするために、次のことを確認してください。

本日の会議の種類



☒ 報告【 情報共有 】

☐ 協議【 意志決定 ・ 問題解決 ・ 調整 ・ その他()】

☐ 意見交換



☒ その他(連絡事項)

※最初に参加者全員で確認し、会議の目的を明確にしましょう。

「会議の持ち方について」

○対話（ダイアログ）

- 私たちと思う
- 耳を澄ませて聴く
- 否定も断定もしない
- 答えは一つと思わない
- 沈黙を歓迎する
- 全員のアイデアをつなげる
- 心の変容を許し、考えが変わる

結果

一人ひとりの存在が尊重され、みんながかけがえのない仲間になる。

人前で喋ることが苦手な人、理論的に喋れない人も語りやすく楽しい。

△討論（ディベート）的思考だと起きやすいこと

- 私はあなたと距離を置く
- 反論材料を探すために聴く
- 自分を断定、相手を否定
- 答えは一つと思い込む
- 隙について自分が喋る
- 相手のアイデアとは繋がらない
- 考え方が変わらない

結果

自分と意見が合う人ばかりで固まり、分断が起きる。

声の大きい人、理論的な人が時間を席巻し、それ以外の人が黙り込む。

※ 自分の発する言葉と相手の発する言葉を「私たちの財産」と思い、俯瞰し、混ぜ合わせ、新しい気づきに結びつけることが必要です。

令和8年度 山形市社会教育委員名簿(五十音順・敬称略)

氏 名	役 職 等
安藤 耕己	山形大学教育学部 教授
大沼 千絵	山形県スクールカウンセラー 山形県家庭教育アドバイザー
寒河江 郁子	地域学校協働活動推進員
波間 淳一	羽陽学園短期大学附属 鈴川幼稚園 前園長
高梨 明恵	山形大学附属幼稚園 園長
高橋 修	山形市立第十中学校 校長
高橋 正樹	山形市議会議員
武田 道子	山形市芸術文化協会 常務理事
檀上 祐樹	東北芸術工科大学 デザイン工学部コミュニティデザイン学科 准教授（学科長）
中川 智子	山形市議会議員
新関 徳次郎	大曽根餅つき保存会 会長
林 勝俊	山形青年会議所 監事
星野 みち子	山形市食生活改善推進協議会 会長
渡部 和生	山形市東部公民館 館長
渡邊 さおり	山形市PTA連合会 母親委員会 委員長

【山形市教育委員会】

金沢 智也	教育長
板垣 裕子	教育部長
土屋 満	少年自然の家所長
菅江 正幸	図書館長
阿部 宏	教育委員会事務局次長（兼）社会教育青少年課長
澤田 斉	社会教育青少年課長補佐
高橋 太一	中央公民館 事務長
志済 直史	西部公民館 事務長
小林 一三	北部公民館 事務長
舟越 晃彦	霞城公民館 事務長
武田 加奈子	社会教育青少年課 管理係長
會田 秀和	社会教育青少年課 社会教育係長
平田 詳	社会教育青少年課 指導主事・社会教育主事
木村 圭	社会教育青少年課 指導主事・社会教育主事補
山川 魁哉	社会教育青少年課 主任
林 実紀	社会教育青少年課 主事
沢口 肇	社会教育青少年課 協働活動員

令和7年度社会教育事業の実施状況について

資料1-1

1 公民館事業の実施状況について（令和8年3月末現在）

社会の変化にあわせて「個人の要望」と「社会の要請」のバランスの取れた学習機会を全市民へ提供するために、行政各機関、社会教育関係団体、大学等との連携・協力関係を構築し、6項目の学習テーマを設定して「社会的要請学習」を展開した。

また、それぞれの地域の課題や実情を踏まえ、世代間の交流と地域住民の連帯感を高める機会を提供するために、地域と協力し、「ふれあい交流」、「地域と共に考えるまちづくり」をテーマに各公民館独自の企画・運営による「地域づくり学習」を展開した。

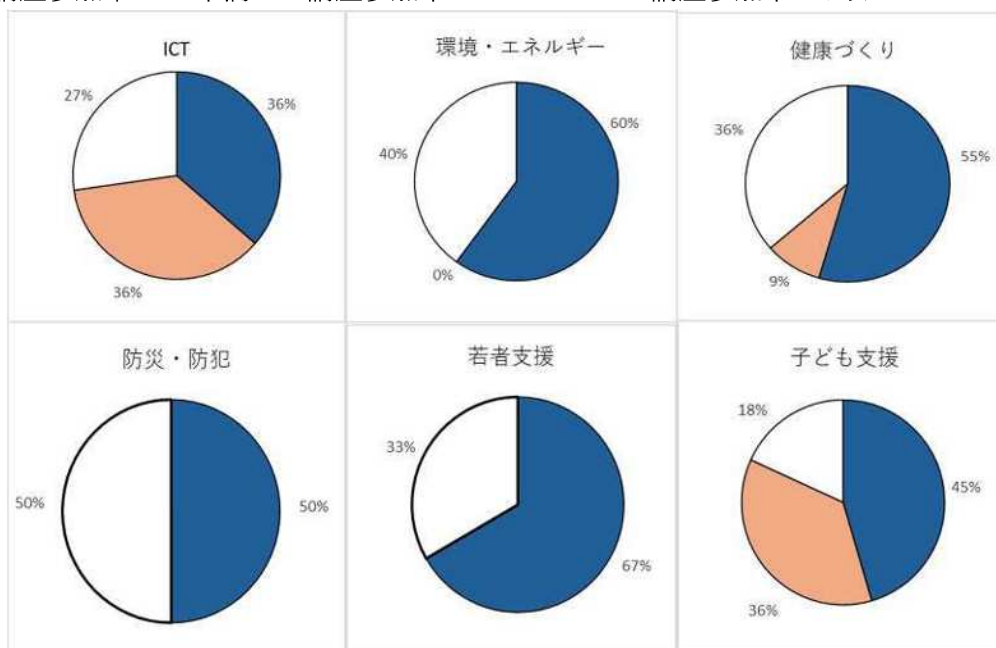
(1) 社会的要請学習の事業実績

（令和8年3月末現在）

学習テーマ	担当公民館	事業数 (事業)	講座数 (回)	延べ参加者数 (人)	参加率 (参加者数/定員)
ICT 役立つICT活用術	全公民館	11	63	719	78%
環境・エネルギー 行って見て聴いて実践エコライフ	北部公民館 江南公民館	5	6	105	111%
健康づくり わたしと家族の健康生活	中央公民館 霞城公民館 南部公民館 元木公民館	11	24	447	95%
防災・防犯 防災・防犯テクニック術	東部公民館 西部公民館	2	6	189	95%
若者支援 まちなかサードプレイス サードプレイスJr.	社会教育青少年課 東部公民館 南部公民館 北部公民館 霞城公民館 江南公民館	6	52	461	78%
子ども支援 体験子ども教室	社会教育青少年課 全公民館	11	26	349	82%
合 計		46	177	2,270	84%

ア 社会的要請学習の参加状況

□講座参加率 70%未満 ■講座参加率 70%～85% ■講座参加率 85%以上



イ 社会的要請学習の実施状況

(ア) ICT「役立つICT活用術」(全公民館)

仕事や日常生活の中で活用し、生活の利便性向上を図るために、パソコン操作及びスマートフォン等のICT機器の基礎的な操作や活用方法を学ぶ。

事業名	実施公民館
パソコン講座	中央
スマートフォン講座	
市民スマートフォン教室	東部
スマートフォン基礎教室	西部
スマートフォン基礎講座	南部
スマホの基本+防災・LINE体験教室	北部
はじめてのスマートフォン講座「入門編」	江南
もっと！スマートフォン講座「活用編」	
スマートフォン活用講座	霞城
スマートフォン初心者講座	元木
スマートフォン講座	



～中央公民館 パソコン教室～



～東部公民館 スマホ教室～

(イ) 環境・エネルギー「行って見て聴いて実践エコライフ」(北部・江南)

環境保全や循環型社会について身近な所から実践する取り組みや地域の豊かな自然との触れ合いの場を提供することで、市民の環境と生活への関心を高める。

事業名	実施公民館
エネルギー回収施設 バックヤードツアー	北部
スポGOMI 北部公民館	
山形自然ウォーキング	
山形の水資源	江南
環境変化と自然災害	



～北部公民館 山形自然ウォーキング～

(ウ) 健康づくり「わたしと家族の健康生活」(中央・南部・霞城・元木)

心身の健康や病気の予防などに関する講座を、市が推進する「スクスク(SUKSK)生活推進事業」等と連携し、健康医療先進都市の確立に資する事業として展開。

事業名	実施公民館
リフレッシュ講座	中央
正しい歩き方講座	
栄養学的健康増進講座	南部
女性のための「健康づくり応援」講座	
南部軽運動部	
睡眠講座	霞城
いきいき血管講座	
美容教室	
SUKSK生活出前講座	
高齢者健康教室	元木
知って備える！もしものときのがん講座	



～中央公民館 正しい歩き方講座～

(エ) 防災・防犯「防災・防犯テクニック術」(東部・西部)

災害発生の原因や社会と地域の災害対策の実態を知り、災害への備えや実践的な対処の仕方を学ぶとともに、最新の犯罪事例を知り身の守り方を学ぶことにより、市民の防災・防犯意識の向上を図る。

事業名	実施公民館
防災・防犯について考える	東部
くらし安心防災・防犯講座	西部



～西部公民館 くらし安心防災・防犯講座～

(オ) 若者支援事業①「サードプレイス Jr.」(東部・南部・北部・江南・霞城)

中学生が公民館事業の企画立案・実施することを通して地域についての学びを深めるとともに、自己有用感を高め地域に対する愛着を持つことができるよう支援する。

事業名	実施公民館
「南部公民館文化祭」の受付、あてくじブース担当	南部
「北部公民館文化祭」への中学生の作品展示	北部
小学生対象工作教室「レジンアクセサリーをつくろう」の企画運営	江南
・「少年少女きらきら教室」の企画運営 ・文化祭における「縁日コーナー」の企画運営	霞城



～江南公民館 レジンアクセサリーをつくろう～



～南部公民館文化祭 あてくじブース～



～霞城公民館
「少年少女きらきら教室」の企画運営 かんたんお菓子作り～

(カ) 若者支援事業②「まちなかサードプレイス」(社会教育青少年課)

高校生が中央公民館を活用し、運営や事業に参画することを通して、まちづくり、事業構想、情報発信などを「ナナメの関係」にある大人と広く学び合うことで、将来的に地域づくりに参画する人材として育っていくことを支援する。

第4期まちなかサードプレイス

「花笠ミニキーホルダーを作ろう！」



(キ) 子ども支援事業「体験子ども教室」

週末や長期休業中にさまざまな豊かな体験学習の機会を提供することで、子どもの自立性を培い社会性を育む。

事業名	実施公民館
親子で宇宙探検隊	中央
茶道教室	東部
わくわくどきどき子ども絵画教室	西部
スポーツチャンバラ教室	南部
子ども体験絵画教室	北部
はじめてのプログラミング講座	江南
親子お菓子づくり教室	霞城
こども”ストリートダンス”体験教室	元木



～東部公民館 茶道教室～



～江南公民館 はじめてのプログラミング講座～

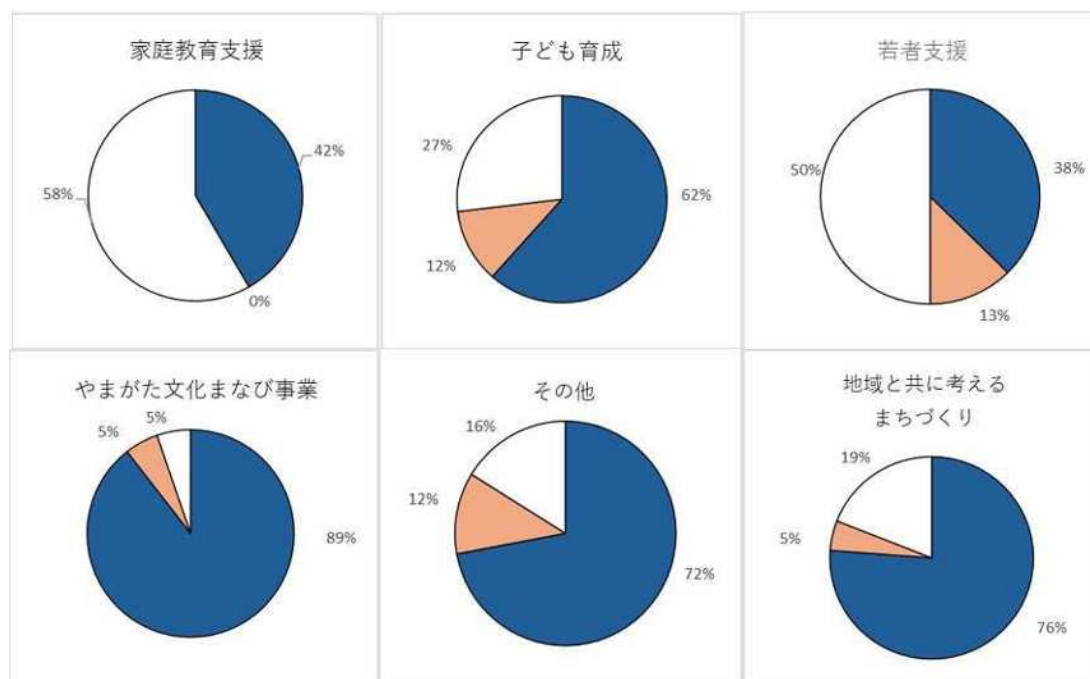
(2) 地域づくり学習の実施状況

(令和8年3月末現在)

公民館		地域住民のふれあい交流の促進					地域と共に考えるまちづくり	合計
		家庭教育支援	子ども育成	若者支援	やまがた文化まなび	その他		
中央	事業数(事業)	1	3	1	2	6	4	17
	講座数(回)	2	3	3	2	9	5	24
	参加者数(人)	10	322	17	143	2,145	579	3,216
東部	事業数(事業)	1	4	1	1	9	1	17
	講座数(回)	1	7	1	4	17	21	51
	参加者数(人)	2	133	9	62	2,626	300	3,132
西部	事業数(事業)	1	3	1	2	11	5	23
	講座数(回)	11	5	1	6	17	51	91
	参加者数(人)	94	76	9	244	3,971	549	4,943
南部	事業数(事業)	1	3	1	3	7	3	18
	講座数(回)	1	7	1	5	12	27	53
	参加者数(人)	44	146	25	119	2,045	824	3,203
北部	事業数(事業)	1	3	1	5	8	4	22
	講座数(回)	2	9	1	6	9	13	40
	参加者数(人)	20	172	26	130	794	1,265	2,407
江南	事業数(事業)	1	2	1	1	5	2	12
	講座数(回)	2	10	3	2	11	48	76
	参加者数(人)	15	171	35	13	3,286	548	4,068
霞城	事業数(事業)	1	4	1	1	15	1	23
	講座数(回)	2	18	1	1	22	1	45
	参加者数(人)	23	319	10	14	3,306	60	3,732
元木	事業数(事業)	4	4	1	4	7	1	21
	講座数(回)	6	4	1	4	43	1	59
	参加者数(人)	90	113	15	49	1,149	73	1,489
社教	事業数(事業)	1						1
	講座数(回)	2						2
	参加者数(人)	30						30
合計	事業数(事業)	12	26	8	19	68	21	154
	講座数(回)	29	63	12	30	140	167	441
	参加者数(人)	328	1,452	146	774	19,322	4,198	26,220
	参加率 (参加者数/定員)	62%	95%	77%	108%	115%	105%	110%

ア 地域づくり学習の参加率状況

□講座参加率 70%未満 ■講座参加率 70%～85% ■講座参加率 85%以上



イ 地域づくり学習の実施状況

(ア) 家庭教育支援事業

保護者が安心感と自信をもって家庭教育を行えるよう、子どもへの理解や接し方、親子のコミュニケーション等、子育てに必要な知識やスキルについて学ぶ機会や、子育ての悩みを相談する機会を提供し、支援を行う。

事業名（一部抜粋）	実施公民館
赤ちゃん和妈妈パパのスキンシップ教室	中央
親子 de チャレンジ！地産地消のみそ作り体験	南部
スマイル子育てタイム	北部



～中央公民館 赤ちゃん和妈妈パパのスキンシップ教室～



～南部公民館 親子 de チャレンジ！地産地消のみそ作り体験～

(イ) 子ども育成事業

さまざまな体験や交流する機会を週末及び長期休業中に設定し、子どもたちの心を豊かに育むとともに、人とつながる喜びを実感し、主体的に人とかわらうとする思いを育てる。

事業名（一部抜粋）	実施公民館
おもしろマジックショー2025	中央
理科実験教室	西部
北部おもしろ工作教室	北部



～北部公民館 北部おもしろ工作教室～



～西部公民館 理科実験教室～

(ウ) 若者支援事業

将来的に地域づくりに参画する人材を育成することを目的として、各公民館において、若者のニーズや課題などを考慮した学びの場を提供する。

事業名（一部抜粋）	実施公民館
高校演劇 音響・照明基礎講習会	中央
南部若者塾 クリスマスコンサート	南部
アウトドア講座	霞城



～中央公民館 高校演劇 音響・照明基礎講習会～



～南部公民館 南部若者塾 クリスマスコンサート～

(エ) やまがた文化まなび事業

郷土の誇れる「文化」を資源に、地域の活力と魅力の向上を図ることを目的として、山形市が持っている多彩で豊かな文化を理解し、多様な文化活動に触れることができる事業を提供する。

事業名（一部抜粋）	実施公民館
やまがたを知る 歩いて蔵王温泉を知る講座	東部
郷土を探る講座	西部
そば打ち体験講座	元木



～西部公民館 郷土を探る講座～



～元木公民館 そば打ち体験講座～



～東部公民館 やまがたを知る 歩いて蔵王温泉を知る講座～

(オ) その他事業（成人・高齢者等対象）

様々な学習内容の事業を実施し、多様な学びのニーズに応えるとともに、事業を通じて市民のつながりづくりを支援する。

事業名（一部抜粋）	実施公民館
七日町商店街振興組合連携事業	中央
手話を知ろう	東部
江南大人の学び場②「県産食材を使った手づくり漬け物」	西部
北部☆夏コンサート♪	北部
霞城ファミリー♪コンサート	霞城



～中央公民館
七日町商店街振興組合連携事業 ミニコンサート～



～東部公民館 手話を知ろう～



～江南公民館
江南大人の学び場②「県産食材を使った手づくり漬け物」～



～霞城公民館 霞城ファミリー♪コンサート～

(カ) 地域と共に考えるまちづくり

地域課題を地域と共有し、地域団体と共同で学習プログラムを企画し、事業を実施する。

事業名（一部抜粋）	実施公民館
単身高齢者との交流会	西部
南部地区感動再発見 「畑谷城址・長谷堂城址」を登る	南部
地域の防災について	北部



～西部公民館 単身高齢者との交流会～



～北部公民館 地域の防災について～

(3) 対象別事業状況

(令和8年3月末現在)

区分	地域づくり学習						社会的要請学習			合 計		
	主 催 事 業			共 催 事 業								
	事業数 (事業)	講座数 (回)	参加者数 (人)	事業数 (事業)	講座数 (回)	参加者数 (人)	事業数 (事業)	講座数 (回)	参加者数 (人)	事業数 (事業)	講座数 (回)	参加者数 (人)
少年	12	42	659	7	9	259	13	63	678	32	114	1,596
青年	7	11	120	1	1	26	1	10	67	9	22	213
成人	44	106	1,784	36	197	5,497	27	97	1,399	107	400	8,680
親子	15	21	637	4	19	255	3	5	65	22	45	957
その他	7	8	2,567	21	27	14,416	2	2	61	30	37	17,044
合 計	85	188	5,767	69	253	20,453	46	177	2,270	200	618	28,490

(4) 公民館利用者数の推移

単位 (人)

利用種別	令和元年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
公民館事業参加者	35,517	16,432	29,643	29,741	28,490
貸 館 利 用 者	314,592	181,408	229,019	226,998	245,501
合 計	350,109	197,840	258,662	256,739	273,991

(5) 公民館利用率 (令和8年3月時点)

ア 中央公民館

部屋名称 (定員)	午前		午後		夜間		合計	
	利用件数	利用率	利用件数	利用率	利用件数	利用率	利用件数	利用率
大会議室 (120人)	119	38.8%	149	48.5%	98	31.9%	366	39.7%
研修室1 (18人)	53	17.3%	103	33.6%	51	16.6%	207	22.5%
研修室2 (30人)	101	32.9%	120	39.1%	47	15.3%	268	29.1%
研修室3 (50人)	111	36.2%	132	43.0%	52	16.9%	295	32.0%
研修室4 (12人)	39	12.7%	128	41.7%	15	4.9%	182	19.8%
和室 (40人)	83	27.0%	71	23.1%	25	8.1%	179	19.4%
パソコン室 (15人)	72	23.5%	76	24.8%	2	0.7%	150	16.3%
軽運動室 (20人)	158	51.5%	126	41.0%	143	46.6%	427	46.4%
視聴覚室 (40人)	138	45.0%	110	35.8%	35	11.4%	283	30.7%
音楽室 (20人)	66	21.5%	66	21.5%	49	16.0%	181	19.7%
ギャラリー	39	12.7%	40	13.0%	11	3.6%	90	9.8%
多目的ホール	95	41.9%	106	46.7%	79	34.8%	280	41.1%
合計	1,074	29.8%	1227	34.0%	607	16.8%	2,908	26.9%
前年度合計 (3月時点)	1,035	29.3%	1,279	36.2%	677	19.1%	2,991	28.2%

イ 東部公民館

部屋名称 (定員)	午前		午後		夜間		合計	
	利用件数	利用率	利用件数	利用率	利用件数	利用率	利用件数	利用率
講堂 (100人)	90	30.6%	150	51.0%	96	32.7%	336	38.1%
学習室B (50人)	211	71.8%	155	52.7%	166	56.5%	532	60.3%
実習室 (36人)	146	49.7%	142	48.3%	76	25.9%	364	41.3%
合計	447	50.7%	447	50.7%	338	38.3%	1,232	46.6%
前年度合計 (3月時点)	454	51.8%	499	57.0%	325	37.1%	1,278	48.6%

ウ 西部公民館

部屋名称 (定員)	午前		午後		夜間		合計	
	利用件数	利用率	利用件数	利用率	利用件数	利用率	利用件数	利用率
集会室 (250人)	234	83.6%	231	82.5%	181	64.6%	646	76.9%
会議室 (24人)	143	51.1%	172	61.4%	54	19.3%	369	43.9%
研修室A (50人)	161	57.5%	182	65.0%	114	40.7%	457	54.4%
研修室B (20人)	125	44.6%	172	61.4%	125	44.6%	422	50.2%
和室AB (36畳)	163	58.2%	144	51.4%	131	46.8%	438	52.1%
和室C (16畳)	52	18.6%	98	35.0%	36	12.9%	186	22.1%
調理室 (調理台4台)	30	10.7%	27	9.6%	10	3.6%	67	8.0%
合計	908	46.3%	1026	52.3%	651	33.2%	2,585	44.0%
前年度合計 (3月時点)	901	45.8%	976	49.6%	645	32.8%	2,522	42.7%

エ 南部公民館

部屋名称 (定員)	午前		午後		夜間		合計	
	利用件数	利用率	利用件数	利用率	利用件数	利用率	利用件数	利用率
集会室 (100人)	200	71.2%	190	67.6%	169	60.1%	559	66.3%
1F会議室 (18人)	185	65.8%	177	63.0%	55	19.6%	417	49.5%
2F会議室 (18人)	127	45.2%	113	40.2%	25	8.9%	265	31.4%
1F研修室 (50人)	190	67.6%	175	62.3%	94	33.5%	459	54.4%
2F研修室 (30人)	147	52.3%	174	61.9%	74	26.3%	395	46.9%
和室A (30畳)	183	65.1%	143	50.9%	68	24.2%	394	46.7%
和室B (20畳)	161	57.3%	154	54.8%	68	24.2%	383	45.4%
調理室 (調理台4台)	21	7.5%	32	11.4%	10	3.6%	63	7.5%
合計	1,214	54.0%	1158	51.5%	563	25.0%	2,935	43.5%
前年度合計 (3月時点)	1,204	53.6%	1096	48.8%	597	26.6%	2,897	43.0%

オ 北部公民館

部屋名称 (定員)	午前		午後		夜間		合計	
	利用件数	利用率	利用件数	利用率	利用件数	利用率	利用件数	利用率
大ホール (100～180名)	225	78.9%	221	77.5%	191	67.0%	637	74.5%
会議室 (30人)	175	61.4%	197	69.1%	68	23.9%	440	51.5%
小会議室A (12人)	132	46.3%	145	50.9%	42	14.7%	319	37.3%
小会議室B (12人)	48	16.8%	68	23.9%	11	3.9%	127	14.9%
研修室 (70人)	186	65.3%	162	56.8%	102	35.8%	450	52.6%
和室 (31畳)	122	42.8%	128	44.9%	59	20.7%	309	36.1%
調理実習室 (20名)	16	5.6%	15	5.3%	2	0.7%	33	3.9%
合計	904	45.3%	936	46.9%	475	23.8%	2,315	38.7%
前年度合計 (3月時点)	892	45.2%	933	47.3%	507	25.7%	2,332	39.4%

カ 江南公民館

部屋名称 (定員)	午前		午後		夜間		合計	
	利用件数	利用率	利用件数	利用率	利用件数	利用率	利用件数	利用率
第1研修室 (和室：12.5畳)	49	17.4%	95	33.8%	24	8.5%	168	19.9%
第2会議室 (和室27.5畳)	88	31.3%	81	28.8%	22	7.8%	191	22.7%
第2研修室 (30人)	146	52.0%	185	65.8%	106	37.7%	437	51.8%
第3研修室 (60人)	153	54.4%	188	66.9%	122	43.4%	463	54.9%
音楽室 (20人)	108	38.4%	78	27.8%	89	31.7%	275	32.6%
集会室 (95㎡)	226	80.4%	200	71.2%	170	60.5%	596	70.7%
軽運動室 (60人)	163	58.0%	155	55.2%	161	57.3%	479	56.8%
料理実習室 (調理台3台)	26	9.3%	30	10.7%	13	4.6%	69	8.2%
第1講習室 (12人)	87	31.0%	108	38.4%	84	29.9%	279	33.1%
第2講習室 (18人)	103	36.7%	112	39.9%	57	20.3%	272	32.3%
講堂 (300人)	216	76.9%	226	80.4%	184	65.5%	626	74.3%
合計	1,365	44.2%	1458	47.2%	1,032	33.4%	3,855	41.6%
前年度合計 (3月時点)	1,298	42.1%	1,405	45.6%	979	31.8%	3,682	39.8%

キ 霞城公民館

部屋名称 (定員)	午前		午後		夜間		合計	
	利用件数	利用率	利用件数	利用率	利用件数	利用率	利用件数	利用率
講堂 (400人)	219	77.7%	196	69.5%	204	72.3%	619	73.2%
会議室 (33人)	157	55.7%	167	59.2%	122	43.3%	446	52.7%
小会議室 (18人)	172	61.0%	206	73.0%	148	52.5%	526	62.2%
研修室1 AB (84人)	170	60.3%	203	72.0%	114	40.4%	487	57.6%
研修室2 (和室：100人)	132	46.8%	155	55.0%	139	49.3%	426	50.4%
研修室3 (和室25人)	74	26.2%	85	30.1%	54	19.1%	213	25.2%
調理実習室 調理台3台	48	17.0%	62	22.0%	24	8.5%	134	15.8%
談話室 (12人)	173	61.3%	192	68.1%	55	19.5%	420	49.6%
合計	1,145	50.8%	1266	56.1%	860	38.1%	3,271	48.3%
前年度合計 (3月時点)	1,088	48.4%	1,278	56.9%	845	37.6%	3,211	47.6%

ク 元木公民館

部屋名称 (定員)	午前		午後		夜間		合計	
	利用件数	利用率	利用件数	利用率	利用件数	利用率	利用件数	利用率
講堂 (250人)	198	70.0%	223	78.8%	151	53.4%	572	67.4%
研修室 1 (18人)	143	50.5%	110	38.9%	93	32.9%	346	40.8%
研修室 2 AB (54人)	104	36.7%	148	52.3%	64	22.6%	316	37.2%
研修室 3 (18人)	72	25.4%	70	24.7%	19	6.7%	161	19.0%
研修室 4 AB (和室：60人)	154	54.4%	122	43.1%	151	53.4%	427	50.3%
研修室 5 (和室：15人)	19	6.7%	63	22.3%	44	15.5%	126	14.8%
調理室 (調理室4台)	55	19.4%	21	7.4%	1	0.4%	77	9.1%
工作室 (40人)	141	49.8%	116	41.0%	31	11.0%	288	33.9%
合計	886	39.1%	873	38.6%	554	24.5%	2,313	34.1%
前年度合計 (3月時点)	863	38.3%	890	39.5%	582	25.8%	2,335	34.5%

2 社会教育青少年課の事業

(1) コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の導入と地域学校協働活動の実施状況について

ア 学校運営協議会の設置状況

(ア) 学校運営協議会の設置状況

令和4年度に全小中学校(51校)で設置済み ※資料1-2 参照

(イ) 学校運営協議会の実施回数

51校(49協議会) 合計146回(協議会平均2.9回)

【内訳】2回(14協議会)、3回(29協議会)、4回(5協議会)、5回(1協議会)

(ウ) 令和7年度の主な熟議のテーマ

- ・ 「私たちの学校」と『私たちの地域』の未来を一緒に考えよう
- ・ 教職員として見つけた子どもたちの「よさ」と地域住民として分かる子どもたちの「よさ」
- ・ 「子どもたちのよさ」を可能にしている「地域のよさ」とは何か
- ・ 登下校(通学班から自立登校へ)
- ・ 働き方改革について
- ・ これからの学校や家庭・地域での教育・学びで大切だと思うこと、チャレンジしたいこと
- ・ 地域の自然や豊富な人材を生かした教育活動の持続可能な在り方について
- ・ 地区の子ども、学校、地域の課題

イ 地域学校協働活動の実施状況

(ア) 地域学校協働活動推進員の配置状況

42校に配置済み(R8.5.1時点) ※資料1-2 参照

(イ) 主な取組

①学校における地域学校協働活動

- ・ 授業準備・補助

D I Yクラブ活動（一小）、地区探検・まち探検・地域めぐり（九小、西山形小、六中）、高校陸上部との交流（南小）、豆腐作り（千歳小）、太鼓・民話の学習（大曽根小）、読み聞かせ（二小、五小、七小、桜田小）、米作り（蔵王一小）、サクランボの学習（明治小）、地域清掃活動（蔵王二小、蔵王三小・二中）、職業体験学習（高楯中）、県外中学校との交流（山寺中）

- ・ 学校行事等の準備・運営
- ・ 登下校に関する対応
- ・ 休み時間・放課後等における対応

②地域における地域学校協働活動

- ・ 大曽根地区放課後子ども教室「そねっこクラブ」〈大曽根地区〉
- ・ 夏休み等学習会〈山寺地区、西山形地区〉

③学校運営協議会から地域学校協働活動の実施につながった事例

- ・ バスガイドを募り『大好きな高瀬の魅力』を伝える」プロジェクト〈高瀬地区〉
- ・ 南山形小学校見守りサポーター

(ウ) 地域住民等の参画状況

3, 715人

ウ 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に向けた教育委員会の取組

①教職員を対象とした「地域とともにある学校づくり研修会」の開催（7/29 令和2年度より実施）

②地域学校協働活動推進員及び学校運営協議会委員を対象とした「学校を核とした地域づくり研修会」の開催（5/23 「地域と学校の連携・協働研修会」として令和3年度より実施）

③教職員や地域住民等を対象にした出前講座の実施（7回）

④視察・取材の実施（27回）と、社教ニュース「ときたまご」（5号発行）による情報提供（R4よりホームページへ掲載）

⑤地域学校協働活動推進員情報交換会の実施（5/23、9/19、11/21）

⑥地域学校協働活動推進員委嘱時の推進員に対する活動内容説明

⑦山形市ホームページへの概要掲載（R4より）

(2) 放課後子ども教室推進事業

「放課後児童対策パッケージ」に基づき、放課後や土曜日に、小学校の余裕教室などを活用し、子どもの安全安心な活動場所を提供するとともに、学習活動や集団での遊びのほか、価値ある体験活動や豊かなかかわりあいを通じて、子どもの自主性を培い社会性を育むことを目的に、平成19年度からモデル校として第一小学校と東小学校、平成20年度から大曽根小学校で放課後子ども教室を実施。令和4年度に一小、東小の放課後子ども教室を終了。令和5・6年度に市内全小学校全児童を対象に行政主体型放課後子ども教室を実施した。令和6年度から公民館における放課後子ども教室を実施している。

＜事業実績＞（令和8年3月末現在）

教室名	開催曜日	登録児童数	開催日数（日）	延べ参加者数（人）
大曽根小放課後子ども教室	月～金	20	158	1,547
公民館における放課後子ども教室	土・長期休業日		37	1,801

No.	学校名	学 校 運 営 協 議 会										地協推進員		
		設置年度			設置年月日	男女別集計			職業別集計			委嘱済	委嘱日	初年度委嘱日
		R2	R3	R4		女	男	総計	一般	教員	総計			
1	山形市立第一小学校		○		R3.10.1	4	5	9	8	1	9	●	R7.4.1	R3.11.17
2	山形市立第二小学校		○		R3.7.1	3	7	10	10		10	●	R7.4.1	R3.7.1
3	山形市立第三小学校		○		R3.7.1	3	7	10	10		10	●	R8.4.1	R4.10.1
4	山形市立第四小学校		○		R4.2.1	1	9	10	10		10	●	R7.4.1	R4.2.1
5	山形市立第五小学校		○		R3.4.1		9	9	8	1	9	●	R8.4.1	R3.4.15
6	山形市立第六小学校		○		R4.1.1	4	4	8	7	1	8	●	R8.4.1	R6.6.1
7	山形市立第七小学校			○	R4.9.1	2	5	7	6	1	7	●	R8.4.1	R4.10.1
8	山形市立第八小学校		○		R3.4.1	1	7	8	7	1	8	●	R8.4.1	R4.6.1
9	山形市立第九小学校	○			R2.4.1	2	7	9	8	1	9	●	R7.4.1	R3.5.21
10	山形市立第十小学校			○	R4.6.1	1	9	10	9	1	10	●	R8.4.1	R4.9.1
11	山形市立南小学校		○		R4.2.1	2	8	10	10		10	●	R8.4.1	R6.4.1
12	山形市立西小学校			○	R4.6.1	3	7	10	10		10	●	R8.4.1	R4.11.1
13	山形市立東小学校		○		R3.6.1	2	6	8	8		8	●	R7.4.1	R3.11.16
14	山形市立鈴川小学校		○		R3.9.1	2	8	10	10		10	●	R7.4.1	R5.4.1
15	山形市立千歳小学校			○	R4.4.1	2	8	10	10		10	●	R8.4.1	R4.5.1
16	山形市立金井小学校		○		R3.12.1	1	9	10	9	1	10	●	R7.4.1	R3.12.1
17	山形市立大郷小学校		○		R4.1.1	4	6	10	10		10			
18	山形市立明治小学校		○		R4.1.1	1	8	9	9		9	●	R7.4.1	R4.1.1
19	山形市立出羽小学校			○	R4.7.1	6	4	10	10		10			
20	山形市立楯山小学校		○		R4.2.1	3	7	10	9	1	10	●	R8.4.1	R6.5.1
21	山形市立高瀬小学校		○		R3.8.1	4	6	10	9	1	10	●	R7.4.1	R3.8.1
22	山形市立山寺小学校		○		R3.7.1	山寺中と一緒に						▲	R7.4.1	R3.5.27
23	山形市立東沢小学校		○		R3.5.1	2	8	10	10		10	●	R7.4.1	R5.7.1
24	山形市立滝山小学校			○	R4.7.1	2	8	10	10		10	▲	R8.4.1	R4.7.1
25	山形市立桜田小学校		○		R3.5.1	1	9	10	9	1	10	●	R7.4.1	R3.10.1
26	山形市立南沼原小学校			○	R4.4.1		8	8	7	1	8			
27	山形市立宮浦小学校		○		R4.3.1		8	8	8		8			
28	山形市立蔵王第一小学校			○	R4.9.1	2	8	10	10		10	●	R8.4.1	R4.9.1
29	山形市立蔵王第二小学校		○		R4.2.1	1	8	9	9		9	●	R7.4.1	R7.4.1
30	山形市立蔵王第三小学校		○		R3.4.1	蔵王二中と一緒に						▲	R7.4.1	R3.4.19
31	山形市立南山形小学校		○		R3.4.1	2	7	9	8	1	9	●	R7.4.1	R3.6.1
32	山形市立みはらしの丘小学校		○		R3.7.1	2	7	9	8	1	9	●	R7.4.1	R3.7.1
33	山形市立本沢小学校			○	R4.7.1	2	7	9	9		9			
34	山形市立西山形小学校	○			R2.4.1	1	9	10	10		10	●	R8.4.1	R3.6.1
35	山形市立村木沢小学校		○		R3.4.1	3	5	8	7	1	8	●	R7.4.1	R3.11.1
36	山形市立大曽根小学校		○		R3.4.1	3	7	10	9	1	10	●	R7.4.1	R3.4.12
小学校合計						72	245	317	301	16	317			
1	山形市立第一中学校		○		R4.2.1	2	10	12	12		12	●	R8.4.1	R4.6.1
2	山形市立第二中学校		○		R4.2.1	2	7	9	9		9	●	R8.4.1	R6.6.1
3	山形市立第三中学校			○	R4.4.1	2	8	10	9	1	10			
4	山形市立第四中学校			○	R4.9.1		9	9	5	4	9			
5	山形市立第五中学校			○	R4.7.1	4	11	15	13	2	15	●	R7.4.1	R7.4.1
6	山形市立第六中学校		○		R3.9.1	1	14	15	12	3	15	●	R8.4.1	R6.4.1
7	山形市立第七中学校			○	R4.6.1	2	7	9	9		9	●	R8.4.1	R4.10.1
8	山形市立第八中学校			○	R4.9.1	3	8	11	11		11	●	R8.4.1	R5.4.1
9	山形市立第九中学校		○		R4.2.1	1	12	13	13		13	●	R7.7.1	R7.7.1
10	山形市立第十中学校		○		R4.3.1		9	9	9		9			
11	山形市立金井中学校			○	R4.5.1	3	10	13	13		13	●	R8.4.1	R4.2.1
12	山形市立高楯中学校			○	R4.7.1	2	11	13	12	1	13	●	R8.4.1	R4.7.1
13	山形市立山寺中学校		○		R3.7.1	7	8	15	15		15	●	R7.4.1	R3.5.27
14	山形市立蔵王第一中学校	○			R2.4.1	4	10	14	14		14			
15	山形市立蔵王第二中学校		○		R3.4.1	2	16	18	15	3	18	●	R7.4.1	R3.4.19
中学校合計						35	150	185	171	14	185			
合 計		3	32	16	51校	107	395	502	472	30	502	39人	42校	

※小中併設校(山寺小・中学校、蔵王三小・二中)は、学校運営協議会を1協議会、地域学校協働活動推進員の配置を1名としている。

山寺中と同一人物

第六中と同一人物

蔵王二中と同一人物

令和8年度の社会教育事業の計画について

資料2

山形市2大ビジョンを踏まえた社会教育事業の推進

山形市の掲げる「健康医療先進都市」と「文化創造都市」の2大ビジョンに基づく市民生活の向上のため、市担当課や関係団体との密接な連携のもと、豊富なコンテンツを用いた効果的・多角的な事業展開を図る。

1 【拡充】社会的要請学習の推進「デジタル社会」

「ICT」としていたテーマを「デジタル社会」とし、幅広く将来に向けてデジタル技術を活用することで利便性、幸福度の向上を図る

「デジタル社会」をテーマにした社会的要請学習

公民館	時期	事業名
中央	7～2月	パソコン講座
	1～3月	先端 ICT 講座（生成 AI 活用）
東部	11月	市民スマホ教室
西部	4月	公民館職員によるパーソナルコンピューター活用術講座 （町内会案内文書を作る）
	6～7月	スマートフォン基礎講座～キャッシュレス決済活用術
南部	8月	超初心者対象スマートフォン基礎講座
北部	4月	ベニ pay 使い方相談講座
	11月	スマホの基本とアプリ体験
江南	7月	短期集中！スマートフォン講座
	7～8月	ゆっくり学ぶ！スマートフォン講座
霞城	6～9月	スマートフォン講座
元木	10～11月	スマートフォン講座

2 【新規】市民の生涯学習活動への支援「文化活動と学びのプラットフォーム形成事業」

地域に点在する文化活動や学びに関する情報を一元的に集約・データベース化し、市民が必要な情報を取得しやすい環境を整備する。令和9年3月から利用開始予定。

3 【拡充】若者支援

高校生や大学生などが、公民館を活用し広く学び合いながら、自らの学びを実現することを通して、将来的に地域づくりに参画する人材として育ていけるように支援する。

また、中学生が公民館事業の企画立案・実施することを通して自己有用感を高め地域に対する愛着を持つことができるよう図る。

(1) 青少年ボランティアによる取組の実施（社会教育青少年課）

・ 青少年ボランティア

市内の中学生・高校生・大学生等を対象に、山形市内の公民館でのボランティアを募集。22名の応募があり（6月1日現在）、公民館とボランティアの受け入れについて調整中。

・ まちなかサードプレイス ビッキの会

大学生6名で活動（6月1日現在）。6月6日（土）に小学生20名を対象に霞城公民館で「どんどんやきを作ろう！」を実施。山形の伝統文化である「どんどんやき」

を作ることを通して地域を学ぶとともに、大学生と小学生の交流を深めた。

(2) 中学生による「サードプレイス Jr.」の実施（各公民館）

今年度は市内の6つの公民館でサードプレイス Jr. を実施する予定。現在公民館区内の中学校に募集をしている。公民館の文化祭や公民館事業に関われるように計画している。

4 【拡充】公民館施設の提供

公民館の貸館受付について、これまでの窓口申請に併用してオンラインによる電子申請を導入することにより、利便性を向上し、平日申請に来ることが難しい世代にとっても公民館が身近な施設となり、生涯にわたり学びや交流の拠点となるよう仕掛けていくことで、利用者層の拡大や使用者数の増加を図る。

また、中学生を対象に「学びの場」として施設を開放し、「サードプレイス Jr.」への参加を促すとともに、若者も利用しやすい公民館づくりを進める

中学生への公民館施設の開放予定

公民館	期日	開放予定の施設(部屋等)	事業やイベント等（予定があれば）
中央	6月15日（月）	4階 大会議室	学習スペースとして（中学生以外も利用可）
東部	6月16日（火）	学習室A	
	9月29日（火）	学習室A	
西部	9月29日（火）	研修室A	
南部	6月16日（火）	3階集会室を除く全館	
	7月28日（火）	全館	
	8月17日（月）	全館	
北部	10月18日（日）	会議室など	たたらふいご祭り
江南	6月16日（火）	第二研修室など	クッキークッキング
霞城	6月16日（火）	全館	サードプレイス Jr. 公民館開放日
	9月29日（火）	全館	サードプレイス Jr. 公民館開放日
元木	7月25日（土）	研修室1	サードプレイス Jr. 生活文化祭
	8月22日（土）	研修室1	サードプレイス Jr. 生活文化祭
	9月12日（土）	研修室1	サードプレイス Jr. 生活文化祭

5 【継続】家庭教育支援の推進

これまでの親子向けではなく家庭教育を担う保護者等を対象として、保護者等が安心感と自信をもって家庭教育を行えるよう支援を行う。事業の在り方については、社会のニーズをとらえながら、主事研修会等で家庭教育支援について更に理解を深め、社会教育青少年課と公民館が一体となり、事業を計画実施していくことで家庭教育支援の充実を図っていく。

(1) 公民館主事研修会：12月2日（水）

家庭教育支援事業県担当者からの説明研修

- ・ 家庭教育の定義や位置づけ等の説明
- ・ 多自治体の事例紹介等

(2) 各公民館での「地域づくり学習 家庭教育支援」

公民館	時期	事業名
中央	10～11月	赤ちゃん和妈妈パパのスキンシップ教室
東部	12月	親子で学ぶ「お金のキホン」
西部	5～3月	にこにこキッズの広場
	7～8月	親子で楽しむ科学～理科実験教室～
	9月	親子で楽しむ 和菓子づくり体験教室
	7月	親子で学ぶ郷土のレシピ～にこにこクッキング～
南部	2月	親子 de チャレンジ！
北部	2～3月	スマイル子育てタイム
江南	9～1月	家庭教育応援講座
霞城	5月	親子ふれあい教室
元木	8・1月	子ども体験教室「元木 ds（もとキッズ）体験塾」
	11月	親子ふれあい教室
	8月	楽しい和菓子づくり教室
	12・3月	桜田くまさんの親子お楽しみ会

令和8年度

山形市社会教育の方針

山形市教育委員会 社会教育青少年課

目 次

I	基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	具体的な施策と主な事業	
1	生涯学習支援体制の充実・・・・・・・・	2
	(1) 生涯学習に関する環境の整備	
	(2) 生涯学習に関する情報の提供	
	(3) 市民の生涯学習活動への支援	
	(4) 社会教育関係団体の育成及び支援	
2	社会教育事業の推進・・・・・・・・	4
	(1) 社会的要請学習の推進	
	(2) 地域づくり学習の推進	
	(3) 公民館職員研修実施体制の充実	
	(4) 地域と学校の連携・協働体制の構築	
	(5) 「 ^{はたち} 二十歳の祝賀式」の開催	

I 基本方針

近年、少子高齢化の進行、核家族化等による地域社会の変化に加え、社会においてはグローバル化や情報通信技術のめざましい進歩などが見られます。また、コロナ禍を経て、オンラインの活用等いかなる状況においても学びを止めない体制づくりを図ることが重要視されています。

本市では、平成28年11月に「山形市教育大綱」が策定され、本市における教育の振興に関する基本的な方針が示されました。それを受けて平成30年2月に「山形市教育振興基本計画」を策定し、本市の生涯学習・社会教育の基本方向性として「生涯学び、人や地域とかかわり、よりよい社会を築く人づくり」を掲げ、基本理念と6つの基本方針に基づき、教育を推進してきました。さらに、令和4年4月に、これまでの取組や先に挙げた地域社会の変化等を踏まえて、計画の見直しを行いました。

本市の理念及び方針の実現に向け、今後も市民の生涯学習の場である公民館の環境整備や利便性向上を図るとともに、生涯学習情報の提供や相談支援体制をより一層充実させ、市民の自発的な学びを支援していきます。そして、人や地域とのかかわりの中で、学び合い教え合う喜びを味わい、市民一人一人が学びを通して生き生きと自己実現を図るとともに、学習成果を社会の中で適切に活かすことができる生涯学習社会の形成、並びに、将来にわたり持続可能な社会の実現に向けて、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献することを目指します。

山形市教育大綱

基本理念

郷土を誇りに思い いのちが輝く 人づくり
～山形らしさの継承 発展 そして発信～

基本方針

- 3 地域の特色・歴史・文化を深く理解しつつ、世界における山形市を意識して行動できる広い視野を持った人財を育成します。
- 4 子どもの人格形成の基盤である家庭と、幼稚園・保育所等・学校・そして地域がそれぞれの役割を果たし連携・協働することによって、教育力の向上と地域社会の活性化をめざします。
- 6 郷土に誇りをもち、地域とかかわり合いながら生涯にわたって学び続け、スポーツ・文化芸術活動に親しみ、健やかな心と体を保ち続けようとする人財を育成します。

※生涯学習・社会教育に関連する方針を抜粋

山形市教育振興基本計画

生涯学習・社会教育の基本方向性

**生涯学び、人と地域とかかわり、
よりよい社会を築く人づくり**

Ⅱ 具体的な施策と主な事業

1 生涯学習支援体制の充実

社会の成熟に伴い個人の価値観やライフスタイルは多様化しており、今後も継続して市民の主体的な学びを支えていくためには、年代などで異なるニーズにも対応する、より幅広い学習支援が求められています。このような状況の中で、市民一人一人が生涯にわたって学び、自己実現を図ることのできる環境づくりに努めます。

(1) 生涯学習に関する環境の整備

ア 公民館施設の提供

市民の生涯学習活動の推進のために、生涯学習に参加する市民に対して公民館施設の提供を行います。提供にあたっては、公民館の空き情報をWEBで公開するほか、施設予約を電子申請でも可能にするなど、利用者の利便性を高め利用者層の拡大や利用者数の増加を図ります。

また、公民館施設を広く市民の利用に供するため、公民館施設の学習室やロビー等、市民が交流や学習活動を目的として個人でも利用できるスペースの提供を行います。放課後や長期休業中に特に要望が多い学習スペースについては、使用していない会議室等を開放します。

中学生を対象に「学びの場」として公民館施設を開放し、事業への参加を促すとともに、若者も利用しやすい公民館づくりを進めます。

イ 公民館施設の使用許可基準の緩和

民間企業等の社内研修や内部会議での利用のほか、地域の活性化に寄与する使用について、使用許可基準の緩和を実施してまいりましたが、「社会教育法」の趣旨に沿った運用の中で、更なる緩和を検討していきます。また、地域学校協働活動等での利用も踏まえ、これまで以上に、人づくり・つながりづくり・地域づくりの拠点となるよう、新たなニーズを踏まえた公民館のあり方について検討していきます。

ウ 公民館施設の管理及び維持・補修

市民の生涯学習の拠点となる公民館の施設について、市民の利便性を図るために、随時必要に応じて維持・補修を実施するなど、適切に管理します。

エ 公民館におけるＩＣＴ環境の提供

公民館に整備された Wi-Fi を活用し、公民館事業やサークル活動の活性化、災害時の避難者の情報収集、学校の臨時休校時の学習環境の提供等、市民の情報収集の利便性向上に寄与します。

(2) 生涯学習に関する情報の提供

ア 公民館だよりの発行

公民館で開催する生涯学習講座や社会教育事業、市の事業や地域の情報、サークル情報等を掲載した公民館だよりを月 1 回発行し、周知を図ります。

イ 市公式ホームページ等への掲載

公民館だよりや公民館施設の概要、事業計画、生涯学習講座の案内等を広報やまがたや市公式ホームページ・SNS 等に掲載し、幅広く情報提供することで、市民の参加を促します。

ウ 関係機関との連携

生涯学習情報について幅広く市民に発信し、自発的な生涯学習への取り組みを推進するために、関係機関との連携を図ります。

エ 文化活動と学びのプラットフォーム形成事業

公民館が、市民の「文化活動と学びのプラットフォーム」としてより機能を発揮し、市のビジョンである「文化創造都市」の形成に貢献していくため、公民館事業を含む、市内のイベント情報などを集約して提供できるデータベースを構築していきます。

(3) 市民の生涯学習活動への支援

ア 生涯学習相談への対応

市民が生涯学習活動に円滑に取り組むことができるよう、サークル及び講師情報や講座開催の手法等についての生涯学習相談に対応します。

イ 共催・後援

教育、学術、文化等の普及向上に寄与する事業に取り組む、公益性のある団体の活動に対して必要に応じて共催や後援等の支援を行います。

ウ 成果発表の機会提供

公民館等で活動しているサークルが日頃の学習成果を発表できる場や生かすことができる機会として、文化祭等を開催します。

エ 公民館とコミュニティセンターとの連携

公民館及びコミュニティセンター相互における市民の生涯学習機会を充実させるため、情報の共有や合同の研修会の実施等、それぞれのニーズに応じた連携を図り、公民館職員・コミセン事務局職員の情報交換、知識や技能の習得の機会を創出していきます。

オ 公民館講座等へのWEBによる参加申込方法の拡大

スマートフォン等でいつでもどこでもWEBで参加申込ができるよう、市公式ホームページからWEBによる参加申込みができる講座を増やしていきます。

(4) 社会教育関係団体の育成及び支援

市民の自主的な学習活動を促進するために、社会教育関係団体等（地域住民及び生涯学習サークルや青少年ボランティア等の地域団体）の育成に取り組みます。育成の一環として、青少年や成人、高齢者に対し、公民館事業における参加者への学習支援等、ボランティア活動の機会を提供します。

また、社会教育関係団体等に対して、研修等の情報の提供などの支援を行います。

2 社会教育事業の推進

社会教育は、社会を形成する自立した個人の育成に資するとともに、人と人との絆を深め地域課題の解決に寄与するなど、地域社会の活性化を図っていく上で重要な役割を果たしてきました。

一方、市民の価値観やライフスタイルは多様化し、地域における人と人との関係の希薄化等の新たな社会的課題や、それぞれのライフステージに対応した学習の充実と、時代の流れに柔軟に対応するための知識や技能の習得の機会が求められています。

社会教育事業は、対応が急務とされる課題の解決、また新たなニーズに積極的に対

応した「社会的要請学習の推進」と、地域の課題解決や世代間交流を図り、地域住民の連帯感を高める機会を提供する「地域づくり学習の推進」を大きな2つの柱として実施するほか、地域と学校が連携・協働し、地域全体で子どもたちの成長を支える『『地域学校協働活動事業』の推進』などの事業を実施します。実施にあたっては、山形市の2大ビジョン（健康医療先進都市・文化創造都市）の実現、並びに将来にわたり持続可能な社会の実現に向けた持続可能な開発目標（SDGs）の視点を加え、関係機関（行政機関・民間企業・NPO・ボランティア等）との連携のもと、多角的な事業展開を図ります。

(1) 社会的要請学習の推進

社会の変化にあわせて、「個人の要望」と「社会の要請」のバランスのとれた学習機会を、全市民を対象に提供します。事業を展開するにあたっては、広報やまがたや市公式ホームページ・SNS、公民館だより、チラシ等を介した周知を図ります。

ア 学習テーマの設定

事業の実施にあたっては、本市及び社会の現状やこれまでの事業実績を考慮したうえで、「デジタル社会」「環境・エネルギー」「健康づくり」「防災・防犯」「若者支援」「子ども支援」の6項目の学習テーマを設定し、リピーターを増やすことだけでなく、新しい対象者にも広げながら、学びの提供を進めます。

イ 事業提供の体制

6項目の学習テーマについて、公民館と社会教育青少年課が連携し、市民のニーズを把握しながら企画立案し、多角的な事業展開を図ります。その中で、公民館職員の事業づくりに関するスキルアップをめざし、事業全体の活性化につなげます。また、実施事業及びその対象地域に偏りが生じないように、テーマごとに担当する公民館を設定します。企画・運営にあたり、関係機関との連携や協力関係を構築し、質の高い効果的な学習機会を提供します。

<学習テーマ及び担当>

① デジタル社会	全公民館	
仕事や日常生活の中で活用し、生活の利便性向上を図るために、パソコン操作及びスマートフォン等のＩＣＴ機器の基礎的な操作やより実践的な活用方法を学びます。また、市公式ＳＮＳ等での情報収集やアプリの活用、Wi-Fi の接続方法を含む、情報モラルやセキュリティー対策、情報リテラシーの啓発を行い、必要な時に、安全かつ速やかに必要な情報を受信する方法を学びます。		
② 環境・エネルギー	北部公民館	霞城公民館
「山形市環境基本計画」が目指す環境像である、「みんなで創る 豊かな自然と笑顔輝く 持続的発展可能なまち」の実現のため、身近な所から実践する取り組みを学ぶとともに、地域の豊かな自然と直接触れ合う体験を通して快適な生活環境のあり方を考えるなどして、市民の環境と生活への関心を高め、環境学習を推進していきます。		
③ 健康づくり	中央公民館	西部公民館
	南部公民館	江南公民館
心身の健康増進や病気・けがの予防のほか、高齢者の健康づくり、感染症予防やメンタルヘルス等の現代的な健康課題の解決について学びます。また、生涯に渡り健康維持や活力増進に繋がるようなスポーツ体験教室などを行います。実施にあたっては市が推進する「スクスク(SUKSK)生活推進事業」等と連携し、健康医療先進都市の確立に資する事業として展開していきます。		
④ 防災・防犯	東部公民館	元木公民館
災害発生の原因や社会と地域の災害対策の実態を知り、災害への備えや実践的な対処の仕方を学ぶとともに、最新の犯罪事例を知り身の守り方を学ぶことにより、市民の防災・防犯意識の向上を図ります。		

⑤ 若者支援	社会教育青少年課	
	全公民館	
高校生や大学生などが、公民館を活用し、「ナナメの関係」にある大人と広く学び合いながら自らの学びを実現することを通して、将来的に地域づくりに参画する人材として育っていくことを支援します。(まちなかサードプレイス)。 また、中学生が公民館事業の企画立案・実施することを通して地域についての学びを深めるとともに、自己有用感を高め地域に対する愛着を持つことができるよう支援します。(サードプレイス Jr.)		
⑥ 子ども支援	社会教育 青少年課	全公民館
公民館における放課後こども教室として、週末や長期休業中にさまざまな豊かな体験学習の機会を提供することで、子どもの自立性を培い社会性を育みます。		

(2) 地域づくり学習の推進

それぞれの地域の課題や実情を踏まえ、地域との協力のもと、子どもから高齢者までそれぞれのライフステージに対応した学習機会や、世代間で交流しながら互いの理解を深め、地域住民の連帯感を高める機会を提供し、地域共生社会の実現を目指します。実施にあたっては、「地域住民相互のふれあい交流」、「地域と共に考えるまちづくり」をテーマに、各公民館独自の企画・運営による地域づくり学習を展開します。

① 「地域住民相互のふれあい交流」(公民館企画型)

より身近なテーマで親しみやすい事業を企画し、公民館により多くの地域住民が集い、幅広い世代間でバランスよく交流する機会を増やしながら地域の連帯感を高めるとともに、今後の地域づくりを担う人材の育成を目指します。

	対 象	事 業 名	
世代別事業展開 (バランス重視)	少 年	ア 子ども育成事業 (公民館における放課後子ども教室)	オ やまがた文化まなび事業
	青 年	イ 若者支援事業	
	成 人	ウ 成人学習支援	
	(保護者等)	エ 家庭教育支援事業	

<注> 少 年：小学生・中学生を対象としたもの

青 年：高校生相当年齢～25歳程度を対象としたもの

成 人：成人一般（従来の「高齢者」にあたる年齢層を含む）を対象としたもの

ア 子ども育成事業

子どもたちの現状は、異年齢の子どもと集団で遊ぶ機会の減少やゲーム等の疑似体験の増加、少子化による子ども会組織の縮小などにより、体験的な学びが不足していると言われています。そのため、公民館における放課後子ども教室としてさまざまな体験や交流する機会を週末及び長期休業中に設定し、子どもたちの心を豊かに育むとともに、人とつながる喜びを実感し、主体的に人とかわろうとする思いを育てます。

イ 若者支援事業

将来的に地域づくりに参画する人材を育成することを目的として、各公民館において、若者のニーズや課題などを考慮した学びの場を提供します。

ウ 成人学習支援

社会の変化や地域のニーズをとらえた、高齢者を含む成人一般に向けた事業を展開していくことで、自主的な学習の推進を図ると共に、住民同士の交流・つながり

の場を創出します。

エ 家庭教育支援事業

核家族化や地域社会のつながりの希薄化等により、家庭内の悩みや不安を抱えたまま保護者等が孤立してしまうことがあると言われています。こうしたことから、保護者等が安心感と自信をもって家庭教育を行えるよう、子どもへの理解や接し方、親子のコミュニケーション等、子育てに必要な知識やスキルについて学ぶ機会や、子育ての悩みを相談する機会を提供し、支援を行います。

オ やまがた文化まなび事業

郷土の誇れる「文化」を資源に、地域の活力と魅力の向上を図ることを目的として、山形市が持っている多彩で豊かな文化を理解し、郷土愛を深め、多様な文化活動に触れることができる事業を提供します。また、実施にあたっては市が推進する「文化創造都市推進事業」等と連携し、文化創造都市の確立に資する事業として展開していきます。

② 「地域と共に考えるまちづくり」（地域共同企画型）

担当する地域との日常的なかかわりの中で把握した地域課題から、地域と共に対応すべき課題を抽出します。それらの地域課題を共通認識する中で、地域団体と共同した学習プログラムを構築し事業を実施します。実施後には、成果と課題を確認し、次年度以降の継続性や方向性について地域団体とともに検討を行います。

(3) 公民館職員研修実施体制の充実

ア 公民館主事研修会の実施

地域との関係構築や、市民の学習ニーズの把握及びその解決に向けた事業の展開の手法等、公民館主事に求められる様々な知識・技能を身に付けるため、研修会を実施します。

イ 国等の研修への参加

国や県等の機関が主催する研修会に積極的に参加し、成果を職員間で共有します。

(4) 地域と学校の連携・協働体制の構築

（コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進）

学校運営協議会は、教育委員会より任命され委員となった地域住民が、教職員とともに学校の運営に関して協議する機関です。学校と地域が一体となって学校運営の改善及び児童生徒の健全育成に取り組むことにより、「地域とともにある学校づくり^{〔※1〕}」の実現を目指しています。

また、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり^{〔※2〕}」を目指して、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う「地域学校協働活動」を推進します。そのために、地域と学校との連絡調整等を行うコーディネーターである「地域学校協働活動推進員」の全小中学校への配置を進めます。

この、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一つの取り組みとして捉え、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を併せて実現することを目指します。

（※1）地域とともにある学校…開かれた学校から一歩踏み出し、地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む学校。

（※2）学校を核とした地域づくり…学校を核とした協働の取組を通じて、地域の将来を担う人材を育成し、自立した地域社会の基盤の構築を図ること。

ア 学校運営協議会と地域学校協働活動の充実・発展

学校運営協議会において、よりよい集団（学校）生活や人間関係を築くために、協働して取り組む一連の自主的、実践的な活動（地域学校協働活動）の話し合いを重ねながら生み出そうとするプロセスを重視した「熟議」が充実するよう、研修会の開催や情報提供等の支援を行います。また、地域学校協働活動を実施することにより、子どもたちの学びや成長を支えるとともに、地域住民等に対して「大人の学び」の機会を創出します。

イ 放課後子ども教室の実施における学校との連携及び地域住民等の参画

放課後や週末、長期休業日等に学校の施設や公民館、その他の施設を活用して、学校との連携及び地域住民の参画を得ながら、子どもたちの安全・安心な活動場所を確保し、価値ある体験活動や豊かななかかわりあいなどの学びを提供することを通して、子どもの自主性を培い社会性を育みます。（※社会教育青少年課は放課後子ども教室推進事業、公民館は社会的要請学習「子ども支援」及び地域づくり学習「子ども育成事業」において実施します。）

放課後子ども教室を通じて、地域と学校の連携・協働体制の構築を図ります。

(5) 「^{は た ち}二十歳の祝賀式」の開催

今年度新たに二十歳になる方を対象に、社会の形成者になったことを自覚するための行事として「二十歳の祝賀式」を開催します。新たに二十歳になる方から有志を募り実行委員会を組織し、式典内容の検討や運営を担うことにより、二十歳の方が主体的に参加できる祝賀式を開催します。



第54号

2026. 3月発行

〈発行〉
山形市子ども会
育成連合会

〈事務局〉
〒990-0047
山形市旅籠町2-3-25
山形市教育委員会
社会教育青少年課内
編集／文化部
印刷／(株)大風印刷



山形市子ども会育成連合会 会長 前田 浩一

常日頃より皆様方
におかれましては、
子ども会活動におい
て格別のご理解のも
と、子どもたちの健全育成に多大なご尽力をいた
だいております事に、心より感謝申し上げます。

子ども会は学校や家庭以外の地域のなかで、近
所の異年齢の子ども達との遊びや体験・スポーツ・
文化・レクリエーション・社会活動などの集団活
動を行い、子どもは思い出を残しながら、いろい
ろな知識・能力・社会生活上のルールを学び、身
につけながら成長していくために大きな役割を果
たしています。

私たち市子連は、「目指そう！子どもの手によ
る子ども会」を活動スローガンに掲げ、各種子ど
も会活動の推進を図っております。おかげさまで、

今年度も主催行事である、リーダー研修会、かけつ
こりレー・駅伝大会、モルック競技大会を開催す
ることが出来ました。こうした活動が、子ども達
の健やかでたくましい心身の発達と、協調性や思
いやりの心を育て、子ども会活動の活発性を図り、
子ども達の成長を育む大切な場です。

久しく少子高齢化といわれる中で、の会員数減少
に加え、社会環境・状況や保護者や子ども達の考
え方の変化に伴い、子ども会活動も、新しい方向
性を考えなくてはならない時期にきています。市
子連は、子ども会の新しい方向性や可能性を考え、
日々成長していく子ども達の笑顔あふれる、活発
な子ども会活動ができる場を常に模索・実現して
いきたいと考えておりますので、今後益々のご協
力をよろしくお願い致します。

令和7年度

山形市子ども会育成連合会 「秋の自然体験」

- 開催日：令和7年10月4日(土)・5日(日)
- 場所：山形市少年自然の家
- 主催：山形市子ども会育成連合会
- 主管：リーダー研修部
- 共催：山形市・山形市教育委員会・山形市社会福祉協議会
- 参加者：小学生17名、育成者20名、計37名
- 活動内容：入所式・オリエンテーション・KYT研修・炊飯活動・
野外活動(プロジェクトアドベンチャー)・キャンプファイヤー・モルック体験・感想文・終了
証授与





令和7年度

山形市子ども会育成連合会 リーダー研修会を体験して

❖ 山形市立第二小学校

五年 岩松 哲矢

最初は知らない人ばかりでしゃべる気もなかったけど、炊飯活動やプロジェクトアドベンチャーを通して班のみんなとも他の別な班の人とも仲良くなれてうれしかったです。班目標は『みんなで協力して楽しく安全な体験会にしよう』で、炊飯活動では役割分担をして協力し、プロジェクトアドベンチャーでは楽しく安全に出来てハイキングでは楽しく安全に協力して出来たので、班目標は達成出来たと思います。三つの行事の他の生活のところでも話し合いや、掃除などを率先し仲間と協力出来た事も良かったです。

❖ 山形市立南小学校

四年 戸田啓仁郎

カレー作りやトレンギング色んな事をしました。

お部屋に泊まる時、お風呂やベッドメイキングなど生活に必要な事が学べました。

❖ 山形市立第二小学校

五年 伊藤 空煌

一日目の最初は緊張してあまり人と喋れなくて、最初はあまり楽しくなさそうだなと思いました。

炊飯活動では僕は火を担当して、火加減をうまくしている班のチームが

話しかけてきて「火かげんうまいね」と言ってくれて、そこから仲良くなつてこれから楽しくなると思いました。

プロジェクトアドベンチャーは仲間と協力し、励ましあつて全部クリアして良かったです。

キャンプファイヤーを盛り上げてくれた所が面白かったです。

二日目のハイキングの道でかなちよろの赤ちゃんがいて、肌はぷにぷに見つけられて良かったです。

次の機会があつたらまた行きたいです。

◆山形市立第二小学校

五年 伊藤瑠綺空

一日目の最初はちょこつと怖かったけど、どんどん喋ってきたら仲良くなつて、カレー作りは協力して出来ました。そのカレーが美味しかったです。

プログラムで更に仲が深まりました。キャンプファイヤーはとても綺麗で、

その次の出し物でも楽しくできました。二日目は、荷物が整理出来て良かったです。

ついせきハイキングの問題は満点じゃなかったけど、ゴールが出来たのが良かったです。

来年もらおうさんと来たいです。

◆山形市立南小学校

六年 小林 拓翔

秋の自然体験会で一日目はまずKYT研修をして、自然の危険な所や気を付ける所を学びました。その後炊飯活動でみんな協力して役割を決めて野菜を切ったり、調理器具を洗ったりしました。班目標の『みんなで協力して』が出来ました。

次にプロジェクトアドベンチャーの川渡りでは、みんなのジャンパーやパーカーなどを使って縄を引き寄せて、六年生か五年生が一年生を受け止めて、協力してると感じました。とても楽しかったです。

キャンプファイヤーではクイズの出し物をしたり、二班が怖い話、三班が伝言ゲームをして楽しかったです。

二日目は追跡ハイキングをしました。追跡ハイキングでは最初は歩いていただけだけど、クイズをしたり少し休憩したりしました。山の中はきのこがあったり栗が沢山落ちていたりバツタやカエルなどもありました。そしてゆつくり歩いたり水を飲んだりして安全にゴール出来ました。

◆山形市立南沼原小学校

二年 藤原 夢愛

今年は二回目で、去年出来なかった事も出来ました。

カレー作りをみんなと出来て楽し

かったです。

雨が降ったけど、キャンプファイヤーが出来ました。

◆山形市立南小学校

五年 稲毛 深織

一日目はみんなでカレーを作つて食べた時、夜ご飯が食べれないくらい美味しくて上手に作れました。

キャンプファイヤーでは、火がともも赤くてきれいでした。

二日目は秋の追跡ハイキングで、毒キノコや栗が沢山あり、バツタやコウロギトンボなどがいました。

沢山の友達が出来て楽しかったです。

◆山形市立第九小学校

六年 鈴木 実和

一日目は行ったら楽しいと分かっていただけ、朝あまり宿題が出来なくてイライラしていた。

その後の野外炊飯では、得意の鍋でご飯を炊く事を活かした。

プロジェクトアドベンチャーで、特にジャイアントシーソーでは足がすごく痛くなった。

でも、乗っている人の中で自分が一番重いはずだからバランスを崩さないように移動した。

二日目はハイキングで虫に刺されたけど最後まで出来たから良かった。

◆山形市立第九小学校

一年 鈴木 多恵

炊飯で火起こしが出来た。カレーが美味しく、失敗しないで出来た。キャンプファイヤーで出し物が面白かった。

◆山形市立南沼原小学校

四年 園田 美空

一日目に炊飯活動でみんな協力出来て良かったと思いました。

二日目の追跡ハイキングでは、普段見ない植物を見つけたたり、調べたりして楽しかったです。

◆山形市立第八小学校

五年 五十嵐早紀

一日目最初はとても緊張したけど、夜になると全然大丈夫でした。

二日目追跡ハイキングでは、かなちよろ、栗、キノコがありました。

一日目と二日目を通して、とにかくプロジェクトアドベンチャーが一番楽しかったです。

◆山形市立南小学校

一年 後藤 權

すごく楽しかった。布団たみ頑張った。プロジェクトアドベンチャーを頑張った。

みんな力を合わせて頑張った。みんな優しく楽しかった。

◆山形市立第二小学校

六年 北島 柚奈

自然体験会に参加してみても一日目は午後から参加したけど、午後のプロジェクトアドベンチャーでみんな仲良く出来て良かったです。

私は初めて参加したけど、初めてのことが多くとっても楽しかったです。

二日目は朝から少し忙しかったけど、仲良く掃除や朝食ハイキングが出来て良かったです。

一日目のキャンプファイヤーでみんなを出し物をしたり、聞いたりしてとても楽しかったです。

来年は中一だけ行けたら行きたいです。

◆山形市立第三小学校

六年 宇野 瑛優

今回は全員名前も知らない人だったけど、炊飯活動では役割分担をして工夫をしながら作ったり、仲間と協力して課題クリアしたりする事が出来ました。

また、班の仲間同士で声を掛け合いながら協力する事が出来ました。

全員が怪我無く安全に体験会を終らせる事が出来て良かったです。

この経験を色々な活動に活かしていきたいです。

◆山形市立南沼原小学校

五年 長谷川未来

私が自然体験をして思った事は、カレー作りの時にみんなで協力出来たんじゃないかと思いました。

◆山形市立南沼原小学校

一年 長谷川敬士

みんなと一緒に風呂に入った事が楽しかったです。

カレー作りの火起こしを頑張りました。

◆山形市立第九小学校

五年 伊藤 蒼真

僕が楽しかった事は、プロジェクトアドベンチャーの川渡りです。なぜか

というと、チームワークがちゃんと出来たからです。楽しかったです。

炊飯活動でらおう君が火加減を一生懸命出来ていて良かったです。炊飯活動で失敗せずに出来て良かったです。失敗してる人に「大丈夫？」と言って良かったです。

モーリーに質問を沢山言えて良かったです。

ベッドメイキングなどちゃんとたためたので良かったです。

ラジオ体操で失敗せずに出来て良かったです。

寝る時に静かに出来て良かったです。キャンプファイヤーが凄く盛り上がりました。

二日間ありがとうございました。



第67回山形市子ども会育成連合会 秋の競技大会 第9回かけっこリレー・駅伝大会

11月29日(土)、ネッツえがおフィールドにおいて、第67回山形市子ども会育成連合会秋の競技大会・第9回かけっこリレー・駅伝大会が開催されました。例年夏に開催しておりましたこの大会ですが、今回から開催時期を秋に変更しております。

市内の9学区から駅伝4チーム24名、400mリレー31チーム124名、総勢148名(重複エントリーあり)の選手が参加しました。

開会式では、南学区の丹波光希さんと南学区の折原明成さんの力強い選手宣誓を皮切りに、関係者、保護者の方々、チームのメンバーからの熱い声援を受け、大会がスタートしました。そして、駅伝と1・2年、3・4年、5・6年ごとの400メートルリレーが行われました。大会当日は晴天に恵まれましたが、少し肌寒い中の開催となりました。またこれまでにない「熊出没」の不安もありましたが、何事もなく終え、子ども達の全力の戦いとたくさんの笑顔で大変盛り上がった大会となりました。この大会を準備・応援してくださった方々、関係者の皆様の協力と保護者の方々の熱い声援があったからこそ、この大会が大成功に終わることができたのだと思います。この大会が来年以降もさらに盛り上がり、子ども達の笑顔が増えていくことを願っております。

各競技の結果は次のとおりです。大会を応援してくださった保護者の皆さま、温かく子どもたちを見守ってくださった山形イブニングロータリークラブの皆さま、熱中症が心配される中、万全の準備・運営をしてくださったレクリエーション安全部員の皆さま、大会に携わってくださった方々に心より感謝申し上げます。

種 目	順位	チーム名	学区名	タイム
駅 伝	1	あかしや駅伝チーム	第九	8'42
	2	南・第九合同チーム	南・第九	9'25
	3	城西二区子ども会駅伝チーム	第七	9'40
男 女 1・2年生	1	城西二区子ども会・男子	第七	1'25
	2	合同チームA	第九・千歳	1'24
	3	合同チームB	第九・宮浦	1'27
女 子 3・4年生	1	城西二区子ども会4年女子	第七	1'14
	2	合同チームC	第九・第四	1'15
	3	城西二区子ども会3年女子①	第七	1'22
男 子 3・4年生	1	あかしやA	第九	1'09'33
	2	かがやきチーム2	第四	1'11'79
	3	合同チームD	鈴川・宮浦・大曾根	1'13'26
女 子 5・6年生	1	南・高学年女子チーム	南	1'03
	2	ひまわり学年女子チーム	第四	1'05
	3	城西二区子ども会	第七	1'12
男 子 5・6年生	1	あかしやC	第九	1'04
	2	南・高学年混合チーム	南	1'10
	3	合同チームE	第九・南・大曾根	1'12



第66回冬の競技大会 第3回イブニングロータリークラブ杯モルック競技会

令和8年2月22日(日)、山形県体育館(霞城公園内)にて、山形イブニングロータリークラブ様のご協賛のもと、第3回モルック競技大会を開催いたしました。

モルックは、フィンランドの伝統的なゲームを原型とし、子どもから大人まで気軽に楽しめるスポーツです。

当日は山形市内各学区より83名の児童が参加し、23チームに分かれて熱戦を繰り広げました。一本の投てきに込められた思い、仲間と励まし合う姿、成功を分かち合う笑顔。会場には歓声と拍手が響き渡り、子どもたちの真剣なまなざしと保護者の皆さまの温かな声援が一体となった、心に残る大会となりました。

大きな事故もなく無事に終了できましたことを嬉しく思います。審判としてご協力いただいた山形駅前モルック会の皆さまをはじめ、運営に携わってくださった関係者の皆さま、保護者の皆さまに心より感謝申し上げます。



結果

- 1位 楯山C
- 2位 高瀬C
- 3位 南 C

第55回東北地区子ども会 育成研究協議会 山形大会

令和7年11月1日(土)～2日(日) 山形テルサ

テーマ「子どもの幸せの実現を目指し、心と体を育む子ども会活動」

東北育成研が7年ぶりに山形市で開催されました。参加者は東北各県の子ども会指導者や育成者、表彰者など約160名。

テルサホールで行われた開会式では全子連・美田会長が「真の成長と幸福」に向け、充実した活動と地域に必要とされる子ども会のために共に突き進んでいこうとあいさつ。各県の団体・個人の表彰式に続き、ちびっこ子四方山会が花笠まつりの踊りを披露、会場は大きな拍手に包まれました。基調講演では、東京医療保健大学・度會睦子教授のこころ・からだ・性にまつわる話から、思春期の悩みの実態や時代に適応した教育提供の必要性などを学びました。

分科会は3つのテーマ毎に開かれ、全子連会長や山形四小校長が助言者として参加、少子化で抱える各地域の課題や活性化に向けた対策、子ども会指導者の人材育成などについて協議をしました。

情報交換会は大曽根餅つき保存会による餅振る舞いや、各県毎のバラエティに富んだアトラクションなどで大いに盛り上がり、東北地区の仲間たちとの絆を深める交流の機会となりました。

本大会の準備と運営にご尽力いただきました山形市子連役員、関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

副会長 小笠原知実



『東部ブロックモルック体験会』

2025年11月16日(日)、きらやかスタジアム屋内練習場にて、東部ブロックモルック体験会が開催されました。

市子連のモルック大会に向けての練習会を兼ねて、楯山、高瀬、鈴川、東の各学区から7チーム、26名程の子供達が参加しました。

会場は、各チームの選手の真剣なプレーに保護者・育成者の声援や拍手が響き渡りました。初めてモルックを体験した子どもたちも、とても楽しめたようで、またやってみようという声がたくさん聞かれました。

最後に大会を開催するにあたり準備、運営をして頂いた楯山地区を中心とした実行委員の方々、応援・サポートしていただいた保護者・育成者の皆様に深く御礼申し上げます。



山形市子ども会育成連合会 第2回常任委員会・新年会報告

日時：令和8年1月24日(土) 場所：山形市総合福祉センター交流ホール



令和7年度山形市子ども会育成連合会の第2回常任委員会及び新年会を令和8年1月24日(土)、山形市総合福祉センター交流ホールで開催しました。

常任委員会では会長、各専門部、ブロックからの活動報告や中間会計報告などが行われました。その後、山形市子ども会育成連合会 新春育成者講演会が開催され、公益社団法人 全国子ども会連合会 会長 美田耕一郎氏より「子ども会がつなぐ地域と子ども」のテーマのもと、ご講演いただきました。多くの育成者の方々に参加いただき、鳥取よりお越しいただいた美田会長より、子ども会活動の意義や、子どもたちの育ちを支える地域の力についてお話いただきました。

新年会は和やかな雰囲気の中、講演についての感想やそれぞれの子ども会活動についての思いなどを語らいながら親睦を深めていきました。

編集後記 「かがやく瞳第54号」をご覧いただきありがとうございました。

今年度は熟考対策を考えてかけっこリレー駅伝大会の時期を変更して開催しました。山形市少年自然の家ではリーダー研修会、モルック大会等の活動も無事開催することができました。これらの活動を通じ、数多く参加した子ども達の笑顔に喜びを感じた一年間でありました。

次世代を担う子ども達が健やかに育っていくための活動を引き続き行っていくしますので、これからも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

編集委員 会長 前田浩一（南沼原）・副会長 安達恭一（鈴川）・部長 鹿野直人（鈴川）・副部長 齋藤 勲（第五）
小野崇文（宮浦）・八鍬 卓（南）・矢作尚男（第七）・鈴木拓也（東沢）・川村由香（西）・菅野寛子（東）
山内理沙（南）・原谷咲子（南）・平田紘子（南）



文化部副部長 齋藤 勲

マザーズねっとわーく

令和8年3月発行
山形市PTA連合会母親委員会

～ ごあいさつ ～

日頃より母親委員会の活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。また、各学校のPTAにおかれましても、さまざまな活動を展開していただき、心より感謝申し上げます。

今年度は『いのちの尊さ大切さ ～笑顔でつなぐ みんなの心～』をテーマに掲げ、活動してまいりました。このテーマには、私たち一人ひとりが持つ命の尊さを再確認し、子供たちと共に笑顔で過ごせる家庭や学校環境を築いていきたい、という思いが込められています。

母親委員会は、子供たちの様子や子育ての悩み、各学校での活動や新たな取り組みなどについて幅広く意見交換ができる貴重な場です。委員会でお出されたご意見を集約し、子供たちの健やかな成長に向けたより良い家庭教育を目指して、必要な研修や活動につなげてまいりました。このお便りをご覧いただき、今年一年間の取り組みを共有していただければ幸いです。

家庭において男女が協力して子育てにあたることは、今や当たり前となってきましたが、日常的に子供と関わる場面では、お母さんの役割が大きいと感じられることもまだまだ多いのではないのでしょうか。一方で、山形市内では約90%の学校で、お父さんがPTA会長を務めてくださっています。子供たちの未来をより良く支えるためには、お父さん・お母さん双方の意見と想いが大きな力になると信じております。

私たち母親委員会は、現代のSNS社会によって日々変化する子育て環境に対応し、大切な子供たちの命を守り、みんなが笑顔で過ごせるよう、これからも皆さんと一緒に学び続けてまいります。

山形市PTA連合会 母親委員長 渡邊さおり

各学校の活動紹介

第一小学校

「絵本の読み聞かせ」と「体育着おゆずり会」を行っています。「読み聞かせ」では、保護者や地域の「いちサポ」の方々に参加していただき年7回実施しています。「どんな本を読んでくれるのだろう。」と、子供たちは毎回楽しみにしてくれていて、最後に子供たちから感想を聴くことができるのも楽しみの一つとなっています。今後も、保護者・地域の方々と子供たちが、楽しい時間を共有できる機会となるよう活動していきたいと思ひます。

母親委員長 田中いつみ



第二小学校

年2回「おゆずり会」を実施しています。1回目は7月の学習参観の日には在校生向け、2回目は2月の新1年生保護者会の日には新1年生向けに行っています。ご家庭で不要になった運動着、スキーウェア、大型リュックを寄付していただき、必要な方に1着100円でお譲りしています。売上金は、子供たちのより良い学校環境づくりのために使用されます。今年度もたくさんの方に参加していただき良かったです。

母親委員長 笠原陽子



山形大学附属小学校

年2回「制服リユース並びに運動着お譲り会」を行っています。1回目は12月の学習参観日に在校生向け、2回目は1月末の新入生説明会時に新入生向けに行っています。10月の教育懇談週間に回収を行い、附属中学校でも回収BOXを設置いただき小学校の制服等を回収することができました。運動着のネームは着用する本人の氏名に直すことを徹底していただきました。保護者の方のご理解とご協力に感謝申し上げます。

家庭委員長 東海林久美子



高橋中学校

毎年、制服や体操着、頻繁には使用しない柔道着などのお譲り会を行っています。また、楯山小と高瀬小にも振り分けし、新入学前のご家庭にも積極的に譲りをしています。

回収時にはたくさんのご協力をいただいております。様々なサイズから選べるため、在校生も体の成長に合ったものを使用できています。

今後も意見交換しながら充実した活動ができるようにしていきます。

母親委員長 板坂由佳



『子どもと大人が前向きに暮らすためにできること』

—SOS の出し方講座の取り組みから—

《講師》^{あんば}安保 ^{ひろあき}寛明 氏(山形県立保健医療大学 教授 看護学科長)



～SOS の出し方講座より～



「ストレス状態」は「嫌なこと」から「脳が疲れていること」

「ストレス」とは、脳に対する圧力(負担)がかかって、活動性が低下している状態。あたまと心のエネルギーは、ふだんの暮らしで回復することが多いが、ある程度のストレス状態になったら、べちゃんこにつぶれた紙風船のように、自力での回復は難しい。子どもと周囲の大人も SOS が出せ、一人で頑張らない!!「辛くなったら言ってね」ではなく、「辛くなる前からお話ししてね」



自分のことを話して OK! な感じにする

「たすけてほしい」も大事だけど「話を聞いて!」も大事。自分の信頼できる人に打ち明けて、助けてもらえると良い。受け止めてくれないと感じても、時間を空けてもう一度打ち明けたり、別な人や場所に打ち明けたりして、あきらめないで言い続けることが大切。3人・3か所までは声を出そう!



誰かとつながることをあきらめない

一度話してうまくいなくてもあきらめないようにする。自分のいいところを思い出す。自分をいたわる(大事にする)方法に時間を割くと良い。自分を元気づけるには、自分っていい人だと思えることが大切。いい人である自分が「疲れているなんてもったいない!」と思って相談する。



周囲の大人も一人で支えない(頑張りすぎない、あきらめない)

一人で支えようとせずに、助けを増やしてゆく。『おおきなかぶ』のように、いずれ何かが変わる。



下記の連絡先やあなたの周囲の人、思いつくところに話してみよう!

- ① 24時間子供 SOS ダイヤル (0120-0-78310)
- ② こころの健康相談統一ダイヤル(0570-064-556)
- ③ 山形市保健所 精神保健・感染症対策室

(023-616-7275 霞城セントラル内) 等

《参加者の感想より》

- *一人で支えず周りと一緒に支えていく気持ちを持つことが大切なのだと知ることができ、すごく心が軽くなりました。
- *子供が安心して過ごせる居場所を作っていかなければならないと感じました。信頼関係を作っていきたい。
- *脳を紙風船に例え、大変わかりやすかった。まずは、自分がどんどん SOS を出せるようになり、子供に伝えていきたい。





山形広域炊飯施設・山形市学校給食センター

学校給食の取組は山形市 HP をご覧ください！→

児童生徒に給食を提供してくださっている「山形市学校給食センター」と「山形広域炊飯施設」を見学し、試食をさせていただきました。安全で美味しい給食を届けるため、両施設の職員の方々の細かな配慮と衛生管理を徹底してくださっている様子を視察し、これまで以上に感謝の思いが深まりました。

衛生管理の徹底 と 環境への配慮

ドライシステム方式(床に水が落ちない構造の施設・設備・機械器具を使用し、床が常に乾いた状態で作業するシステム)やエアシャワーを採用し、衛生管理が徹底されています。給食運搬車は、排出ガスの低減に配慮した車が使用され、生ごみ等や廃油は、肥料等としてリサイクルされています。

地産地消の取り組み と 食育の充実

米飯は、市内産の「はえぬき一等米」が提供されています。「じゃがいも」「にんじん」「だいこん」「キャベツ」は市内の農業団体と委託栽培の協定を締結し、「りんご」「さくらんぼ」「ぶどう」は全て市内産が提供されています。また、郷土食の提供や図書給食、卒業学年を対象としたバイキング給食の実施、管理栄養士が学校に出向いて「食」についてのお話をするなど、食を通じた学びを提供してくださっています。



アレルギー対応食の提供

「卵除去」「乳除去」「卵・乳除去」の3種類に対応した給食を提供しています。

子育て支援 ほほえみ食堂

山形県 PTA 連合会元会長の新関徳次郎さん(山二醤油醸造(株)代表)が運営する「ほほえみ食堂」は、40社余りの企業の協力を得ながら、2022年からひとり親世帯を対象に食料品や日用品、学用品など毎月30組限定で支援されています。今回は、新関さんのご厚意で味噌作り体験をさせていただきながらお話を伺いました。活動が続ける中、支援を受けた方々からは「温かく応援してくれる人がいるのが嬉しい」「孤立しがちな中で気持ちが救われた」などの感謝の言葉が寄せられ、支援品だけではなく、交流が生まれることで心の支援にもつながっていることに気づかれたそうです。また、支援する側が心から楽しんで活動する事を信念とされており、新関さんのお人柄があるからこそ、優しさあふれる交流の場が生まれているのだと感じました。

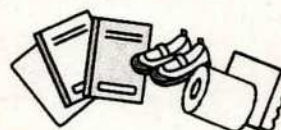


ほほえみ食堂への新規申込み・支援ご協力はHPからご確認ください！

ほほえみ食堂はテイクアウト専門・完全予約制・無料です！

～支援品を集めています！～

現在 400 家族の登録があり、
まだまだ支援が足りていません。



山形市 PTA 連合会 教育懇談会への参加

令和7年9月26日(金)開催

霞城公民館講堂にて、市教育委員会、各校 PTA 会長、母親委員会運営委員が参加し、教育懇談会が開催されました。教育委員会の方より「山形市の ICT 教育の推進・ICT 環境整備について」ご説明いただいた後、子供たちが実際に使用しているタブレット端末を用いた ICT 体験をさせていただきました。お話の中で「使用することを目的とするのではなく、手段として文房具のように使っていく」というお言葉がとても印象的でした。授業で手を挙げて発言することが苦手な子でも自分の意見を発表でき、周りの意見も知ることができる ICT 教育は、これからの教育現場でますます必要になると強く感じました。



第2回定例母親委員会 情報交換ワールドカフェ

令和7年6月23日(月)開催

第1回定例母親委員会の情報交換で出された話題をもとに「ワールドカフェ(リラックスした雰囲気の中で少人数に分かれて行う話し合いのこと)」を行いました。今年度も多くの保護者の方々に共通する子育ての不安や悩みなどから設定したテーマについて自由に意見を交わし、新しい母親委員のメンバーと共に理解を深め、新たな気づきやアイデアを得ることができました。この他にもたくさんの意見が出され、最後は参加者全員で情報共有をしました。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

◆放課後の過ごし方 家庭学習・学童・習い事◆

- ・学童での人間関係のトラブルを通じた学び
- ・学童に行かない子は、ゲームだけになりがち
- ・スポ少や習い事で、親以外の大人から褒められると自信が付き伸びる
- ・タブレットを使用した宿題が増えている

◆不登校 登校渋り・フリースクール・多様な学びを考える◆

- ・各学校のサポート体制はどうなっているのか
- ・友達との関わり方はどうしていけば良いのか
- ・色々な選択肢があるので、親も子も焦らない
- ・どんな状態の子でも受け止められる親でいたい
- ・フリースクールや相談窓口について知りたい

◆SNS・メディアについて◆

- ・学校の友達以外の知らない人と SNS で連絡を取り合っていないか心配
- ・いじめや仲間外れにつながらないか
- ・SNSの危険性を子供にもっと教えるべき
- ・スマホの使用時間を決め、宿題を終わらせてから使うルールにしている
- ・普段からの親子のコミュニケーションが大切

◆発達障害について◆

- ・「発達障害」という言葉は認知されてきたが、関わり方や接し方がわからない
- ・子供同士のトラブルがあっても、柔軟に対応できる学校の環境作りが必要
- ・地域の相談窓口などを気軽に利用する

◆母親委員会のこれから

各校の活動内容・課題など◆

- ・児童生徒数の減少などで、役員の選出が大変
- ・委員は父親でも良いが、母親の意見も反映したい
- ・名称変更の検討や、すでに変更した学校もある
- ・主な活動…読み聞かせ、お譲り会、給食試食会等

◆母の息抜き◆

- ・自分なりのストレス解消法や楽しみの時間を作る(ペットとの時間、家庭菜園、映画、推し活等)
- ・頑張り過ぎず、適度な手抜きが大切
- ・家族の協力が不可欠

山形市PTA連合会 母親委員会の主な活動報告

●令和7年度活動テーマ

「いのちの尊さ大切さ」～笑顔でつなぐ みんなの心～

●定例母親委員会

- 第1回母親委員会(5/12) 今年度の活動計画・情報交換
- 第2回母親委員会(6/23) ワールドカフェ
- 第3回母親委員会(2/16) 今年度の活動反省・情報交換会

●拡大母親委員会(11/8) 講師：安保 寛明 氏(山形県立保健医療大学 教授 看護学科長)

講演：『子どもと大人が前向きに暮らすためにできること』—SOSの出し方講座の取り組みから—

●「親学」家庭教育視察研修(11/17) [山形広域炊飯施設・山形市学校給食センター]と[子育て支援 ほほえみ食堂]

●母親委員会だより「マザーズねっとわーく」No.30(3月発行)



山形市PTA連合会は
HPで活動を発信しています！
QRコードまたは下記URL
からご覧ください！
<https://www.ymgtcity-pta.com/>



一年間母親委員会の活動にご理解とご協力を頂き、ありがとうございました。(運営委員一同)

- 令和7年度 運営委員会 ●委員長：渡邊さおり(金井中) ●副委員長：渡辺佐和子(第十小) 鈴木友香(南山形小)
●運営委員：板坂由佳(高橋中) 田中磨理奈(第七小) 伊藤知恵(東小) 青木由紀絵(出羽小)
細谷真紀子(滝山小) 小川由美(宮浦小)

web 版

社教ニュース

ときたまご



令和8年3月23日（第5号） 山形市教育委員会社会教育青少年課

地域課題を解決する世代間交流の取組み ～出羽紅花バンド～

現在、地域住民同士の交流や世代間の交流の機会の創出、第三の居場所づくりなどが地域の課題として言われており、各地域ではその解決に向けて様々な取組を行っています。

出羽町内会連合会では課題解決のための各世代の共通のアイテムとして「音楽」に着目しました。令和6年度に出羽小学校と連携を図りながら、地域に「紅花太鼓クラブ」を立ち上げました。小学4年生から70代までが参加しています。

令和7年9月には出羽小学校と第七中学校と連携を図りながら「出羽紅花バンド」を立ち上げました。コンクールに出場することではなく、「自分が楽しむこと・地域のみなさんに楽しんでもらうこと」を目的に、小学生や中学生、20代から70代のメンバー17人が月に4回コミュニティセンターに集まって音楽を奏でています。3月11日の練習では、吹奏楽の経験がある20代のメンバーが中心になってみんなで演奏を楽しんでいました。

来年度も新しい音楽の取組を考えているそうです。これからの展開に御注目ください。

令和7年度をふりかえって

今年度は「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」の他に、家庭教育支援や青少年ボランティア、コミュニティセンターの事業に関する情報もお伝えしてまいりました。

9月2日発行の第2号では「地域で活躍する若者たち」というテーマで、ボランティア活動に取組む中学生や高校生、大学生等の特集をしました。若者の地域に対するあふれんばかりの熱い思いに触れ、今や若者の存在は地域づくりに不可欠の存在になっていることを感じています。

令和8年度も「子どもと学校、地域の未来を創る当事者」である皆様とともに、社会教育事業を一層進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

裏面に令和7年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」の実施状況及び成果・課題を掲載しています。

令和7年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」の実施状況及び成果・課題

【学校運営協議会に関すること】

○学校運営協議会の開催数

51校で146回（各校で2～5回実施） ※7校が4回以上開催しています。

○熟議のテーマ

- ・「私たちの学校」と「私たちの地域」の未来を一緒に考えよう
- ・教職員として見つけた子どもたちの「よさ」と地域住民として分かる子どもたちの「よさ」
- ・「子どもたちのよさ」を可能にしている「地域のよさ」とは何か
- ・登下校（通学班から自立登校へ）
- ・働き方改革について
- ・これからの学校や家庭・地域での教育・学びで大切だと思うこと、チャレンジしたいこと など

【地域学校協働活動に関すること】

○地域学校協働活動推進員の配置校数

41校（令和7年度は蔵王第二小学校、第五中学校、第九中学校に配置）

○地域住民等の参画者数（令和7年4～12月まで）

3,228人

【社会教育青少年課の取組】

○「地域とともにある学校づくり研修会」の開催（教職員等10名）

○「学校を核とした地域づくり研修会」の開催（推進員等40名）

○出前講座の実施（7回）

○視察・取材の実施（27回）

○地協ニュース「ときたまご」の発行（5号）

○地域学校協働活動推進員情報交換会の実施（5/23、9/19、11/21）

【成果と課題】（学校・地域学校協働活動推進員年度末アンケート結果より）

○成果

- ・子どもたちの「地域への愛着」や「地域の担い手としての自覚」の意識向上
- ・授業づくり（授業や教育活動の充実）
- ・地域住民同士のネットワークの広がりや深まり

○課題

- ・保護者や地域住民への周知
- ・地域の人材発掘・人材確保（学運の委員や地協推進員、地域ボランティア等）
- ・地域づくりへの活用

社教ニュースときたまごのバックナンバー及び山形市における「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」については、こちらからご覧ください。



Web 版

社教ニュース

ときたまご



令和8年6月11日（第1号） 山形市教育委員会社会教育青少年課

「社教ニュースときたまご」は、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に加え、高校生や成人を対象とした事業や公民館事業など、より幅広く社会教育に関する情報をお伝えしています。「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」の更なる推進にお役立ていただければ幸いです。

「関係者版」は先生方と学校運営協議会委員のみなさん、地域学校協働活動推進員、公民館、コミュニティセンターにお送りします。また、山形市ホームページに「Web 版」を掲載します。

令和8年度の主な事業

- ・ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
→ 研修会、取材、情報交換、地域学校協働活動関係団体等支援
- ・ 放課後子ども教室
→ 大曾根小放課後子ども教室、公民館における放課後子ども教室
- ・ 若者支援
→ まちなかサードプレイスビッキの会、サードプレイス Jr.
- ・ 家庭教育支援
→ 研修会
- ・ 社会教育関係団体、ボランティア活動団体等への支援

学校を核とした地域づくり

地域学校協働活動は「地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動」です。

5月30日（土）学校を核とした地域づくり研修会を開催しました。大曾根地区の放課後子ども教室「そねっこクラブ」から寒河江郁子氏、山寺を愛する教師の会から田中克氏、サードプレイス村から山形市立第三中学校の鈴木うたさんが事例提供者として参加し、それぞれの魅力的な取り組みについて御紹介いただきました。また、社会教育士の小林星太氏にファシリテーターとして参加していただき、事例発表者と他の参加者をつなぐようなパネルディスカッションの場をつくっていただきました。

【参加者より】

- ・ いずれの事例もそれぞれの熱意が伝わってきて、実践の価値や意義を感じることができた。それぞれの思い、成長の実感など、生の声を聞くことができた。
- ・ 初めて参加させていただき、貴重なお話をお聞きでき、大きな学びになりました。ありがとうございました。“つながる”ことの大切さ、そして“つながる”ことの難しさを実感しながら日々生活している中で、子育て世代として、母として、保護者として、自分でできることを実行していきたいと改めて思いました。
- ・ 第三中の鈴木さんは、地域に関するボランティア活動に参加する中で、自分たちの成長や課題を実感しながら成長していると感じました。地域づくりのためもありますが、かかわった人々のやりがいや成長につながることは意味があることで、持続させるためのモチベーションでもあると思います。「この活動の物語を紡いでいきたい」という言葉が印象的でした。

まちなかサードプレイス「ビッキの会」～どんどんやきをつくろう～

令和8年度から「ビッキの会」改め、「まちなかサードプレイスビッキの会」とし、大学生だけで構成していた枠を高校生及び大学生、同世代の青年と広げました。現在は大学生8名が加入しており、6日（土）には小学生対象に「どんどんやきを作ろう」という企画を実施しました。市内からたくさんの小学生が参加し、楽しく安全に活動しました。自分で作ったどんどん焼きの味は格別だったようです。

社教ニュースときたまごのバックナンバー及び山形市における「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」については、こちらからご覧ください。

